

初代旭市長に 伊藤忠良氏が就任



▲8月1日初登庁

若い人が集い、高齢者が人生を楽しめる 日本一住み良いまちを目指して

ごあいさつ

七月一日、新旭市がスタートいたしました。旧一市三町は一部事務組合を結成して各種事業に取り組んでまいりました。いわば共同経営者であり、まさに気心を知りぬいた者同士の結びつきでありました。その合併した初代市長に選ばれたことは身に余る光栄であると同時にその責任の重さを痛感いたします。新旭市にはたくさんの方々が備わっています。一つには穏やかな気候と豊かな台地であり、干潟八万石の水田は県内では他に類の無い広さであり、整然と整備された田園風景は県内随一の米所をそこに見ることが出来ます。また干潟から海上、飯岡へと続く丘陵地帯は肥沃なローム層があり、そこで作られるさまざまな野菜は美味しいと、消費者の皆さんから大変好評であります。加えて豚、牛、鶏等畜産の飼養頭数は県全体の半分を超えるほど盛んであり、飯岡漁港の水揚げ量は銚子漁港に次いで県内第二位。このように米、野菜、肉、卵、牛乳、魚など食料な

プロフィール



伊藤忠良^{ただよ}

昭和19年生まれの61歳。鎌数在住。養豚業を営むかたわら、旧旭市農協青年部委員長、旧旭市消防団第6分団長、旧旭市農業委員、旧旭市議会議員を歴任し、平成14年から旧旭市長1期。

らすべて揃う、しかも全国一安定供給可能な温暖な気候に恵まれています。二十万人を超える商圏人口を形成している商業は活力があり、市の核として県内一の設備を誇る医療、福祉があります。旭中央病院は十一市十八町一村、診療圏人口百万人の基幹病院として一日の入院患者数一千人、外来三千五百人、病院で働く者一、八五〇人、昨年度の救命救急センターの利用者は六万人を超えました。こうした既に旭市の持っている要素を活かした「まちづくり」を進めることによって、当市は地方分権時代にふさわしい自分の足で歩ける「まち」に発展できる、私はそう信じています。子どもたちが元気に走り回る、雇用の場や働く場がたくさんあって若者が集える、高齢者が健康でいきいきと人生を楽しめる、日本一住み良いまちをつくりたい。市民がお互いに助け合い、協力し合って安全で安心、常に笑い声の絶えない、そんな旭市をつくるため、全力で頑張っています。市民の皆さまの応援を心からお願ひし、就任のごあいさついたします。